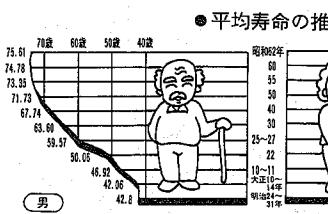


新津市長寿番付

(9月8日現在、敬称略)

- 田村リイ 98歳 明治23年11月13日生 蒲ヶ沢
- 渡辺タノ 98歳 明治24年1月4日生 新町3
- 安達サク 98歳 明治24年3月3日生 草水町3
- 徳永栄太郎 97歳 明治24年12月17日生 大安寺
- 本間タノ 97歳 明治24年12月20日生 本町2
- 古谷ヤト 97歳 明治25年1月16日生 金沢町3
- 神田藤松 97歳 明治25年1月20日生 福島
- 古石休治 97歳 明治25年1月21日生 古田
- 鈴木サタ 97歳 明治25年7月18日生 田家2
- 長井辰之丞 97歳 明治25年12月1日生 程島

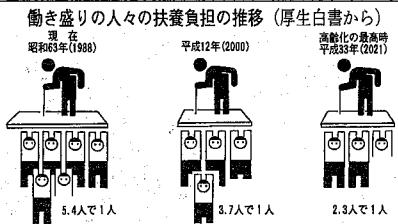
迫りくる超高齢化社会



資料:厚生省情報統計部、昭和2年は「国民生命表」その後は「完全生命表」

健康などに問題抱える高齢化

人口の高齢化に伴って、どのような問題が生じてくるのでしょうか。高齢化社会が抱える代表的な問題として、お年寄りの扶養負担の問題があります。国統計では、現在働き盛りの人五・四人で一人を支えなければならぬことになります。特に、寝たきりや痴呆性のお年寄りの介護の問題



働き盛りの人々の扶養負担の推移(厚生白書から)
現在 平成6年(1988) 平成12年(2000) 高齢化が最も進む時 平成33年(2021)
5.4人で1人 3.7人で1人 2.3人で1人

(厚生省統計)。

新潟県の寝たきりのお年寄りが約六十万人から百六十万人に増加するといわれています。新潟県の寝たきりのお年寄りは約一万人、このうち約七千人が家庭で介護を受け、ほかは特別養護老人ホームや病院に入院しています。

新津市では、約二百六十人います。このうち二人が家庭で介護を受けています。医療・看護と連携した介護施設の整備はまだ十分とは言えず、今後の整備拡充がどうしても必要となってしまいます。

要望が多いた在宅福祉の充実

お買物、ご用命は市内へ

駿河屋
TEL (22) 054-3111
新津市本町四

和洋御菓子司
銘菓雪かこい田家屋
TEL (22) 043-3111
新津市本町四和洋御菓子司
銘菓栗太郎

◎高く買います
土蔵の品・タンス・掛軸・不用品
お電話くださいれば、お伺いします
古美術 岩渕
025(266)3426 夜(24)3478
(新潟店) 新津市車場1

30年後
4人に1人は高齢者です。

会を特集します。

高齢化速度は
フランスの五倍、アメリカの三倍

日本の高齢化社会への進み方には、次のような特徴があります。
①諸外国に比べて、高齢化のスピードが非常に速いこと。
例えば、老年人口比率(総人口に占める六十五歳以上のお年寄りの割合)が七%から一

わずか二十五年になっています。

②七十五歳以上の年寄りが急増していること。昭和六十

年の三・九%から平成三十三

年には一・三%に急上昇す

るといわれ、これに伴って介護の必要度が急激に高くなる

と推定されています。

③高齢化に地域差があること。

新潟県の平成元年四月一日現

在の老年人口比率は一四・五

%で、全国平均一一・五%を

三%も上回り、より高齢化が

年には一・三%に急上昇す

るといわれ、これに伴って介

護の必要度が急激に高くなる

と推定されています。

④高齢化による問題。

新潟市の状況をみても、こ

れらの例外ではありません。

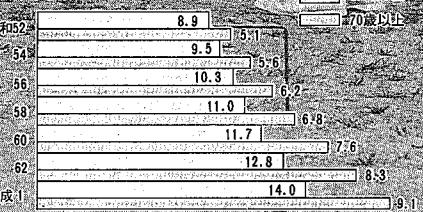
老人人口比率は、一四・〇%

と県平均より下回っているも

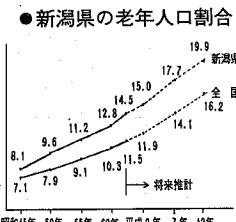
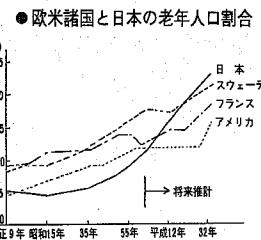
の、この十年間で一・五倍

近く増えています。

お年寄りだけの世帯が急増

●新潟市内のお年寄りの割合
(全人口に対する%)

※調査日 各年の3月31日



電気のことなら、お気軽にお問い合わせ!

お宅の家電品はすべて調子よくお役に立っておりますでしょうか? ちょっと点検してみて下さい。もし、お困りのもの、ご不満のものがございましたら何なりとご相談下さい。(どのメーカーでも結構です)



※午後8時 OYAEDEN 株八重電商事
まで営業 新津店 新津市本町2丁目1-12 ☎ (025) 24-3131

朝9時30分までの受付は当日上がり
高級衣類のお手入れは……

マルヤクリーニング 持込2~3割引 ☎ 22-0739

正しいクリーニングと保存は
衣類の本当の節約

日本は、今や世界有数の長寿国になっています。平均寿命の伸長などによって、約三十年後には、人口の四人に一人は六十五歳以上という、世界にも例を見ない本格的な高齢化社会を迎えることになります。豊かな長寿社会を築くためには、高齢者だけでなく、世代を超えて一人ひとりが高齢化社会の問題を自分自身の問題として考えていかなければなりません。今号では、身近に「迫りくる超高齢化社会」を特集します。